書き抜き読書ノート 102	2009 年 1 月 8 日

Suzuki Method 才能教育 No166、冬 2008 ～ 09 教室めぐり 山口県 中村素子クラス

才能教育研究舎 2008 年 12 月 15 日発行を読む

20分近い基礎練習が確実な力を生む

１．レッスンは名前、学年、練習してきた曲名をきちんと言って始まる。

２．振りの次は、トナリゼーション。「共鳴の一点」「分散和音」「弦ごとのユダス・マカベウス」。

３．音階はメトロノームを 60 にかけてト長調とト短調を 2 オクターブ(指導曲集 6 巻以上の生徒からは 3 オクターブ)を 4 分音符から 32 分音符まで。すべて逆さ弓を混ぜて弾く。

４．先生の「はい」で次々進んでいき、子どもたちは流れるようにこなすが、これだけで 20 分近くかかる。

５．どの子も指導曲集の進み方とは関係なく、芯のある音と、弓使いの確かさが育っているのを感じる。

６．レッスンを始めてから、一つひとつ増やしていき、一通りできるようになるまでの子どもの毎日の積み重ねと、先生の根気はいかばかりかと思う。そして曲に入るとその基礎力を使って「歌い方」の指導になる。中でも多く繰り返し口にしていたのは「いい音で」だった。

７．「鈴木先生から抱えきれないほどいただいた教えを一つでもたくさん、上手に伝えたい」中村先生が子どもに向ける眼差しがやさしい。

(コメント)

世界一のレベルのバイオリン教育は、一つ一つの教室で具体的にはどのように行われているのかを知ることは、すべての教育関係者に多くの示唆を与える。3 月 30 日(日)には日本武道館で 3000 名の演奏者が出演する第 52 回グランドコンサートが開かれるというが、楽しみである。

― 2009 年 1 月 8 日林明夫記―